

このとおり、学校評価について報告いたします。

高松市立多肥小学校 校長 角 年 祐 印

	評価項目	評価 4段階	自己評価結果と改善方策等	学校関係者評価結果および意見等
1	確かな学力の育成に関すること (学力向上、キャリア教育、英語教育、情報教育等)	3	体験的・問題解決的な学習を取り入れ、電子黒板等を積極的に活用し、分かる喜び、学ぶ楽しさを実感できている。今後も引き続き進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 校舎増築工事の関係で引き続き、教育環境が整わない状態が続いている。新体力テストの結果が向上していることは評価できるが、他の運動能力もぜひ伸ばしてほしい。今後も外遊びや体育の時間等での体力向上の取り組みをしてほしい。 百寿会は、年40回ほど幼保小に行っている。その活動を生かせるように「地域をつなぐネットワーク」を学校が核となって作り上げてほしい。 家庭が共働きで忙しいので学校に多くのことを任せてしまっている状況にある。例えば、登下校の見守りは、下校時に若い親が特に少ない。それは、仕事の関係と考えられるので、午前は保護者、午後は地域と分担して取り組んでいけるのではないだろうか。現在、百寿会は、おもに団地を中心に見守りをしている。 校区の人口は、増加しているものの地域との関係性や子どもクラブ、PTAの活動が縮小しており残念である。小学校が中心となって特に子育て世代との関係作りをしていくことが、これから必要になってくると考える。 地域の団体も高齢化が進んでいる。若い人が入りやすくなるように学校と協力していきたい。 子どもたちのアンケートでは、「まつり」をしてほしいという意見が多い。校区にある神社を中心として、総合的な学習にも関連させて、「お神楽」「獅子舞」など地域の文化や伝統にふれ、地域を大切に思う心情を育ててほしい。 「まつり」を始めるに当たっては、地域としても協力を惜しまない。舞いを見学したり、地域に取材に行ったり、さまざまな活動が考えられる。カリキュラムとして組み立て、取り組むことで学校やPTA、子どもクラブ、地域が、より活性化していくことにつながる。
2	豊かな心を育てる教育の推進に関すること (道徳教育、小中一貫・連携教育、ふるさと教育、読書活動、体験活動等)	3	校内研究会を通して、道徳指導方法の改善を行った。道徳の時間に資料の価値分析の方法や操作の活動を取り入れたことで児童の道徳的実践力が高まっている。	
3	生徒指導の充実に関すること (いじめ、不登校対策等)	3	生徒指導推進チームを中心に教職員の共通理解を図れ、生活目標を振り返りカードに記録し、家庭も連携して指導している。アンケート調査や児童への聴き取りを重ね、指導が充実し、「いじめを許さない」という意識の醸成が図られている。	
4	運動に親しむ習慣づくりと体力の向上に関すること (体力・運動能力の育成)	3	学校保健委員会でも専門家による体幹を鍛える運動を全校生と保護者に行った。新体力テストでは、柔軟性を中心に前年度より向上しているが、走力、投力は課題がある。	
5	食育の推進と心身の健康づくりに関すること	3	全校ばくばくデー(給食完食の日)の取り組みを行い、栄養教諭が全クラスを巡回指導することで食育を進め、成果を上げている。養護教諭が心身の健康づくりとして、対話を心がけ児童へのケアに努めている。	
6	人権教育の推進に関すること	3	人権に関わる授業参観や集会を行い、意識の高揚や保護者啓発に努めている。10月に人権月間を設定し、人権・同和教育の視点に立った学習指導が実践できた。	
7	特別支援教育の推進に関すること	3	さつまいも作りなどの生活単元学習の発表に地域の方を招いて交流するなど社会性の育成に努めている。交流学級を中心に相互に認め合う態度を育てている。	
8	教員の資質向上と教育指導体制の充実に関すること	3	学校課題を解決のために4つの推進チームを構成し、リーダーを中心に毎月話し合う場を設け、責任感と実行力を持って取り組んでいる。若年教員に対して、中・長期的な視点に立った研修を計画し、資質向上できるように実践していく。	
9	安心・安全で質の高い教育環境の整備に関すること	3	地域単位で30の班を編制した。防災や登下校時の安全を確保するために、班内会議と集団下校を計画的に実施した。防災意識の向上と地域に対する所属感が高まった。	
10	家庭や地域との連携・協働に関すること	2	家庭や地域に学校・学年だより、HPの更新、ブログの発信を行うことで、計画的に情報を共有し協働できている。	
11	夏季休業日の短縮に関すること ・学力の定着(補充的な学習の充実) ・教師と子どもが向き合う時間の確保 ・ゆとりある教育課程の展開(ゆとりある学習進度等)	3	8月の4日間で、担任が事前のアンケートをもとに学級の児童全員と個別の面談を行うことができた。夏休み中の生活や学習面や交友関係など、児童が日頃感じていることを理解する良い機会となった。この面談で得た内容を2学期以降の指導に生かせるように学年団で、情報を共有していくことが必要である。	
12	働き方改革・業務改善に関すること	3	T-C@mpass 掲示板を活用し、効率的に会議が進められるようになった。全体で共有する場の確保が必要である。	